

はなおだより

平成29年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成29年4月18日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

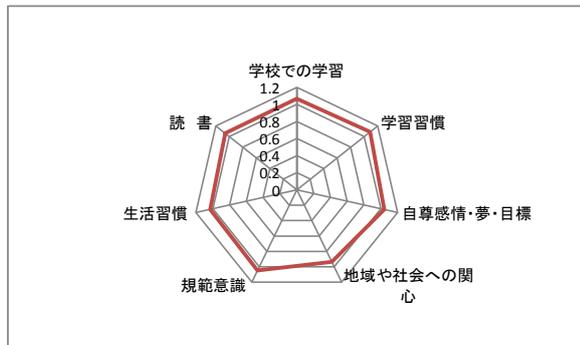
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析(傾向や特徴)	全国平均正答率との比較
国語A	<ul style="list-style-type: none"> 全体的には全国平均正答率をほぼ上回っていた。 無回答率はどの問題も0だった。 読む力を問う問題に課題がある。 	上回っている
国語B	<ul style="list-style-type: none"> 全体的には全国平均上回っていたが、目的や意図に応じて文章を書く問題に課題がある。 物語を読み、具体的な叙述を基に理由を明確にして自分の考えをまとめる問題は、全国平均をかなり上回っていた。 	上回っている
算数A	<ul style="list-style-type: none"> 全体的には全国平均正答率を大きく上回っている問題が多かった。 図形問題の底辺と面積の関係を理解する問題と、資料を表に分類、整理する問題に課題がある。 	上回っている
算数B	<ul style="list-style-type: none"> 全体的に全国平均正答率を上回っていた。 2けたの数量の関係を捉え、そのきまりを記述する問題は、無解答もいたが、全国平均正答率を大きく上回っていた。 	上回っている

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> 規範意識が高く、学校のきまりをしっかり守る児童が多く、全国平均を上回っている。 話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりする活動ができていると感じている児童の割合が全国平均を上回ったことは、授業の中で、自分の考えやまとめ・振り返りを、自分の言葉で書く活動を位置付けた成果と考える。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

- 昼休みを短縮し、週2回全学級で放課後補充学習を行い、基礎・基本の学力定着を図る。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- 週2回の放課後学習塾を行うことで、自学自習の習慣付を図る。また、アシストシート等を活用することで、基礎的な内容の定着を図る。